

第2回天理市立病院改革検討委員会の要旨について

◇日 時 平成23年8月4日（木）13：30開始～15：30終了

◇場 所 天理市立病院 5階会議室

◇出席者 友永委員長、籠島副委員長、山田委員、瀬瀬委員、山本委員

◇協議内容

昨年度の天理市立病院改革検討委員会のご意見の経過報告について(資料)

平成22年度の天理市立病院改革プラン進捗状況について(資料)

現状報告について(資料)

◇委員からの主な意見（要旨）

《収入面に関して》

- ・病院経営をしている以上は、入院収益が安定してこないと経営の糧とはならない。
- ・公立病院であるため民間医療機関が提供していない不採算部門を引き受ける事が義務になっている一方で採算を取れという矛盾がある。
- ・入院収益の減少は医師の数もありますが、看護師の数が問題で受け入れ出来なかったのではないかと。
- ・収入を増やすにはマンパワーが必要である。
- ・看護師募集年齢などを再検討して募集の仕方を抜本的に変えたらと思う。
- ・准看護師の割合や臨床検査技師、給食調理人の数が費用構造から見ると多いのではないかと。
- ・収益を確保するための病床利用率70%など改革プラン数値を全職員に徹底させなければならない。
- ・地域としては、土曜日に外来診察は有りがたいが、月曜日を診察の方が有効だと思う。
- ・公的病院における地域医療の役割は、不採算部門での増収とは別の話である。

《検診事業に関して》

- ・天理市の検診受診率が非常に低い、検診事業を保健センターと一体化するということを検討してはどうか。
- ・特定健診の保健指導の全てを市立病院で受けてはどうか。その健診受診者が次の顧客になると思う。

《地域完結型医療、地域連携に関して》

- ・入院した患者に入院日数3ヶ月の制約の話がされると落ち着かない、大きい病院では在院日数が影響しますが、市立病院では入院患者に対して、「安心して治療が受けられますよ」と安堵感を与えることが大事であると思う。この病院で最高の医療を受けられるなんて事は患者は考えていないと思う。
- ・長期入院も不採算部門であると思う。
- ・一番上の病棟を療養型病棟に変更する事はできないのか。
- ・病診連携について、熱心に取り組んでいただいている。医師会も市立病院も一つの核としてネットワーク作りを考えている。
- ・在宅の訪問看護もどんどんやっていってはどうか。
- ・例えばアルコール中毒で入院した者、精神病の合併症で入院した者、一人暮らしで入院してすぐに退院できそうもない人が救急で来たとき拒む事がある。公的病院の不採算部門として、市と市立病院が一体となって、行政が責任を持って処理をする流れが必要だと思う。